

# 教育同窓会 会報

- ・ 教育学部
- ・ 人間社会学域  
学校教育学類
- ・ 大学院教職実践研究科
- ・ 養護教諭特別別科

発行：金沢大学 教育同窓会事務局

第 14 号 2024.3.22



## 教育はどこへ 向かうのか？

教職実践研究科 教授  
吉川 一義

仕事帰りの21時頃。塾に出入りする高校生の集団をよく見かける。教師だけでなく生徒も多忙である。多感な時期の大方を「答えのある問題」を解くことに費やしている。2019年3月、国連子どもの権利委員会から日本政府に対する総括意見が出され、「過度に競争的な学校システムを含むストレスの多い教育環境から子どもを解放する措置の強化」が求められた。権利条約批准以降、連続4回目の改善勧告である。日本の教育はどこへ向かうのか。

小田忠市郎氏(2019)は、日本の学校教育を「昔も今もこれからも、成績中心主義。勉強のできる子はいい子、できない子はダメな子。成績さえ良ければ、それでOK」と評し、危ぶんでいる。児玉教仁氏(2011)は、ハーバード大学の授業風景を援用して「リスクをとって何かにチャレンジしなさい、新しいことをやりなさい。既存の仕組みをぶっ壊しなさい。世界に影響を与えなさい」という勇敢な哲学を紹介している。日本の大学入試は教科試験。対して欧米の大学入試は、書類審査と面接試験。書類審査では「これまでの社会活動経験」や「入学後に何をしたいか」などのエッセイが求められる。書類審査後の面接試験では、答えのない問題が出され「議論する力」が査定される。欧米の大学入試には“偏差値”など存在せず、様々な価値観のもとで多様性のある学生を採用している。これが大学のパワーや評価に繋がっているとされる。2022年1月、東大前で大学入学共通テストの受験生らが刃物で切りつけられる事件があり、その動機から偏差値教育への批判が高まった。学力偏差値は1970年代に広まった。背景には、72年連合赤軍の残党が人質をとって山荘に立て籠もった浅間山荘事

件があるという。大前研一氏が後に首相となる中曽根康弘氏のアドバイザーだった頃、「また学生運動が盛んになりませんか」と尋ねたら、氏は「心配いりません。学力偏差値を全国に導入して、政府に逆らう学生が出ないようにしていますから」と即座に答えたという。驚き、絶句してしまい「それは違います。と、はっきり言えなかったのは思い返しても残念だ」と回顧している(大前、2022)。偏差値は学生に自分の位置づけを強烈に意識させる。偏差値偏重が普及すれば「自分は優秀だ」と勘違いし、政府に楯突く学生はいなくなるというのか。思考力や個性を重視しない教育をして、主義主張しない国民で居てくれれば都合がいいということか。

偏差値偏重が続く原因は大学側にもある。大学入学共通テストで学生を選ぶことも問題の1つ。スタンフォード大学は「起業」、インド工科大学なら「エンジニア」のように、求める学生像を明確に公示し、適した入試方法と課題を独自に課す。画一的な大学入学共通テストを利用しなくても良いのではないか。2023年度、全国で870大学・専門職大学・短期大学がこれを利用した。総合型選抜や学校推薦型選抜であっても必要な場合があり、毎年、約50万人が受験する。6教科30科目あり、志望大学の指定科目を選択する。国公立大受験では概ね5教科7科目が必要。自身の興味関心に関わらず、多くの科目でより良い成績を取ることが重要な価値となって時間を費やす。多感な時期、生活者として「地域や世界が抱える課題を知り」、「興味深く面白いと感じたことに没頭し」、「成すこと自体が楽しい」時を過ごすことと引き換えに。

偏差値偏重、入試至上主義から脱却して多様な才能を認め、横並びを排し、出る杭を認めて伸ばす社会に変えていかなければ新たな発展は望めないのではないか。大学入試改革はこのパラダイムの転換に繋がる大事業であると意識しておきたい。10年、15年先には社会の形成者となる人たちの多様な可能性を潰さないために。

## シリーズ 大学を訪ねて⑩

金沢大学人間社会学域  
学校教育学類附属高等学校  
校長 中澤 宏一



### 「附属高校の生き立ち」

本校は昭和22年、金沢高等師範学校附属中学校として創設されました。当時、我が国には高等師範学校が、東京高等師範学校(現在の筑波大学)と広島高等師範学校(現在の広島大学)の2校しかありませんでした。太平洋戦争末期、科学技術を担当する理系の教員養成が急務とされ、昭和19年に金沢高等師範学校が設置されました。

本校の源流は昭和20年1月に金沢高等師範学校に設けられた特別科学学級です。特別科学学級は理系の英才を育成する学校で、東京に2つ、金沢・京都・広島に各1つの計5ヶ所に設けられました。金沢では金沢高等師範学校の先生の指導の下、高度な科学技術を学びました。戦後も日本の復興の為には科学技術の英才教育が必要であるとされしばらくの間は継続されましたが、昭和22年閉鎖となり、閉鎖された特別科学学級の多くの生徒を編入し発足したのが金沢高等師範学校附属中学校だったのです。

創設当時、「昭和の松下村塾」を目指した精神は、現在の学校目標「地球サイズの教育」にもつながっています。また、松下村塾の自由な雰囲気は、本校の伝統的校風「自主自律」に重なると思っています。松下村塾の精神や本校の伝統的校風は、今、すべての学校に求められている「主体的、対話的な深い学び」や「探究的な学び」につながります。本校が校風として「自主自律」を大切に守り続けてきたことには先見の明があったと考えます。

### 「附属高校の今」

本校の正式名称は金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校です。高等学校としてはおそらく日本で一番長い校名ではないかと思えます。

本校は文部科学省からSGH(スーパーグローバルハイスクール 5年間)続いてWWL(ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業拠点校 4年間)の研究指定を受け、令和4年度末までの9年間連続で、グローバルに活躍できる人材の育成に取り組んできました。この間、探究的な学びを中心とした教育研究に重点を置き、一定の成果を得たと自負しています(新型コ

ロウイルス感染症の世界的拡大により、予定していた海外でのフィールドワークのほとんどが中止になったことが残念でなりません。

令和4年4月には、スクールミッションとスクールポリシーをまとめた「金沢大学附属高校2030 志」を学校経営の中心に掲げ、



開校記念祭での歌舞伎公演

- ①激動が予想される2030年に向け、「地球サイズの教育」を実践し、学校創設以来の伝統的校風「自主自律」の精神を身に付けたグローバルに活躍でき、異彩を放つ異才を育成する。
- ②自ら課題を見つけ、主体的に解決に挑む姿勢をもち、広く社会に貢献できる人材を育成する。

教育に全力で取り組んでいます。

このような教育実践に生徒は見事に応え、本校としては初めて来たる3月につくば市を会場に4日間行われる「科学の甲子園全国大会」(JST科学技術振興機構主催)に出場したり、連続でエコノミクス甲子園地区最優秀賞を受賞し全国大会に出場するなどの実績を残し、活躍の場を北陸から全国に広げています。また、WWLの指定で構築したコンソーシアムを活かし、高校生の探究成果発表会と高校生国際会議をあわせた「ミライシコウ金沢」を発足させ、その第2回を令和6年3月16日(土)に金沢大学を会場に開催します。



運動会での応援披露

学校教育学類 家政教育専修の紹介

## 私たち家政教育専修です！

学校教育学類家政教育専修では、中・高家庭科の免許取得をめざし、滝口圭子先生、花輪由樹先生、森島美佳先生、綿引伴子先生のもとで学んでいます。3・4年生合同の授業では、学年の壁を越えて和気あいあいとした雰囲気の中で、刺激し合い高め合いながら学習しています。先週は、昨年(2023年)春に自分たちが仕込んだ味噌の「味噌開き」をしました。



味噌開き(手前みそ)

私たち家政教育専修は、昨年の2023年10月に行われた第60回金大祭にカフェを出店しました。お店では、手作りのクッキーや小物を販売したり、紅茶を振舞ったりしました。

専修での企画の出店は初めてだったため、何もノウハウがないなかでの準備はとて大変でした。準備期間が短く、専修内の学生への周知も遅かったため、担当できる店員が不足し、2日間どちらも3人という少ない人数でお店を運営したのですが、なんとか成功させることができました。

## 令和5年度 教育同窓会代議員会開催

2023(令和5)年度は役員改選の年であるため代議員会を開催しました。

開催日は2023年7月28日、金沢大学かくまちプラザで行いました。

能登地区の会員が減少しており、支部の再編についても議論しました。そのための会則の改正や、個人情報保護方針についても議論しました。議件は以下の通りです。

- 第1号議案 2022(令和4)年度 事業報告・会計決算報告・監査報告
- 第2号議案 教育同窓会 会則 改正(案)
- 第3号議案 2023(令和5)年度～2024(令和6)年度 役員(案)
- 第4号議案 2023(令和5)年度 事業計画案・予算案
- 第5号議案 個人情報保護方針(案)

これらはいずれも賛成多数で承認されました。なお、改正された会則や個人情報保護方針については教育同窓会ウェブサイトに掲載されておりますので、ご確認ください。

<https://www.sakane.net/kanazawa-u-kyoikudosokai/>

学生だけでなく、小さなお子さんからおとなの方までお店に来て、楽しんでいました。クッキーと紅茶のセットがとても人気で、昼ごろに完売してしまい、追加でクッキーを焼きにいくほどでした。お菓子や紅茶をのんびりと



金大祭にカフェ出店

たしなむことができる空間が、お客様から大好評でした。今回の金大祭での様子を聞いて、専修のなかに、次は一緒に参加したいという声がたくさんあったので、今年も参加したいと思っています。今年も金大祭では、もっと家政の魅力が伝えられるような企画を準備して、臨みたいと思っています。



2023年度追いコン(3・4年生)

## 令和5～6年度教育同窓会役員

会長	金浦 修郎	1968(S43)
副会長	加賀地区 池野 忠	1967(S42)
	金沢市 澤野 等	1970(S45)
	能登地区 長野 真一	1980(S55)
会計	宮松まり子	1981(S56)
	櫻井ルリ子	1981(S56)
監事	東 実	1975(S50)
	松村 典彦(学友支援室)	
顧問	金沢大学教授 山本 卓	
	金沢大学教授 大谷 実	
	金沢大学名誉教授 山本 博男	1972(S47)
事務局長	坂根 功一	1980(S55)
支部長	小松支部 吉岡 憲一	1971(S46)
	金沢支部 東 俊一	1969(S44)
	金沢市支部 高澤 忠雄	1965(S40)
	能登支部 長野 真一	1980(S55)

\*前同窓会長 窪田長世様におかれましては2023年ご逝去なさいました。ここに謹んで哀悼の意を表すると共に、同窓会運営に賜りましたご尽力に感謝申し上げます。

## ☆☆☆ 基金・学友支援室からのお知らせ ☆☆☆

**令和6年度の第18回ホームカミングデイは、11月2日(土)に開催！  
卒業生・修了生の皆様、久しぶりに青春の学舎に寄りませんか！**

昨年、令和5年10月28日(土)、本学角間キャンパスにおいて、第17回金沢大学ホームカミングデイを開催し、午前中はキャンパス見学会、午後は、歓迎式典、特別講演会、懇親交流会を実施しました。4年ぶりに制限のない形での開催となり、歓迎式典には約180名、懇親交流会には約150名の同窓生等にご出席いただき、盛況な一日になりました。

歓迎式典では、和田 隆志学長による歓迎挨拶、安宅 建樹金沢大学学友会会長の祝辞の後、山岸雅子理事・副学長により、金沢大学の近況が報告されました。

学生3名から活動報告がありました。まず、フランスに留学した学生からは海外での留学体験を通して学んだことや将来の目標などが語られました。さらに、大学院で研究を行う学生からは、現在行っている研究の内容や研究の魅力などが語られました。最後に、馬術部所属の学生からは、団体の活動内容や地域との関わりについて、報告が行われました。現役学生の活躍ぶりに多くの同窓生が温かい眼差しを向けていました。

その後、特別講演では、前厚生労働省健康局長の佐原 康之氏(平成元年医学部医学科卒業)に、「Working for Public Health @ 霞が関」と題し、人口構造の大幅な変化や健康寿命の重要性について講演いただきました。

歓迎式典終了後は、金沢大学学友会第13回総会が開催され、安宅 建樹会長が再任されました。

夕刻からの懇親交流会は、安宅 建樹会長の乾杯の発声で始まり、本学同窓生等の木管アンサンブル<ナチュラル・クインテット>の素晴らしい演奏をBGMに、参加者らは旧交を温めていました。さらにフィナーレには、4年ぶりとなる校歌・寮歌の斉唱が行われ、大いに盛り上がりました。

また今年度は、ヴァーチャル空間に旧城内キャンパスを再現したヴァーチャルキャンパス見学会が開催され、参加者らは、母校の懐かしい学び舎へのタイムスリップ体験を楽しんでいました。

次回については、多くの同窓生の皆様からのご要望を受け、金沢マラソンとの日程の重複を避け、例年より一週遅い令和6年11月2日(土)に第18回ホームカミングデイを開催することとしました。同期生・サークル仲間の皆様におかれましては、是非とも懐かしい母校にお越しいただけますよう、お願い申し上げます。

○金沢大学基金Webサイト(ホームカミングデイの情報も掲載)

<https://kikin.adm.kanazawa-u.ac.jp/kikin/>

○基金・学友支援ニュース・レター(金沢大学基金Webサイト内にPDF版を掲載)

同窓会の開催予定や報告、本学の行事・イベント等をご紹介します。

### 教育同窓会 会計決算報告(R4年度)

令和4年度 金沢大学教育同窓会 会計決算報告(R4.4.1~R5.3.31)

#### 【収入】

項目	金額(円)	備考
1 繰越金	2,021,831	
2 会費	971,683	新入学生終身会費(49名)
3 利子	34	
合計	2,993,548	

#### 【支出】

項目	金額(円)	備考
1 会議費	5,559	会計監査会
2 通信費	31,870	住所変更連絡等料金後納郵便料 事務連絡費
3 事務用品費	7,808	プリンタインク、名刺
4 分担金	0	
5 印刷発送費	1,095,783	会報No.13印刷発送
6 慶祝費	162,000	卒業祝い図書カード(1,000円×162枚)
7 その他	0	会報執筆お礼は卒業祝い図書カードの残りから
合計	1,303,020	

収入総額 2,993,548 - 支出総額 1,303,020 = 1,690,528

【差引残高】 1,690,528円は2023(R5)年度事業に繰り越し。

### 編集後記

能登半島地震により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。新年の慶びが容赦なく奪われた様子に、心が痛みます。このような時期ではありますが、会報14号を発行いたします。復興の日が必ず来ることを信じて、前に進みましょう。(中村)

### 教育同窓会ウェブサイト開設

教育同窓会では活動の状況や情報をより広く、より早くお伝えすること、交流の場を広げ、つながりが持てることをめざして、ウェブサイトを開設しました。

会報は第1号から最新号まですべて掲載、新着情報として様々な活動の様子もお伝えできるようにしています。

また、教育同窓会への連絡がしやすいように、同窓会開催情報の連絡、お問い合わせ、会員情報の変更などのためのフォームも用意しています。

ぜひ一度ご覧になり、ご意見ご感想等あればぜひお寄せください。

現在「思い出のアルバム」のページも企画中です。昔懐かしい校舎や教室、行事の写真で、インターネットに公開できるものがありましたら、ご提供ください。

教育同窓会ウェブサイトのURLは3ページにあります。

### ★同窓会情報をお寄せください★

同期会や研究室の同窓会などの開催予定や開催情報を、同封の返信用はがきで事務局までご一報ください。情報をお知りの方、どなたでも構いません。会報に同窓会情報として掲載します。幹事様のお名前をご連絡ください。

また、同窓会を開催するために、名簿などの情報が必要でしたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【事務局】 〒920-1192 金沢市角間町  
金沢大学事務局 基金・学友支援室  
TEL 076-264-5075  
gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp